

春風にのって すんくじらへ

「ぶらり旅：薩摩半島編」

- ◇ 日程：3月25日(夕)～31日(昼)
- ◇ 対象：中一～中三
- ◇ 人数：10名
- ◇ 参加費：¥49,000円(予定)
- ◇ 子供会議：3月21日(土) 午後1時半～4時

自然教室事務所(地下鉄中崎町下車)



今年の寒波はそれほど強くないため、暖かい日が続いていますが、ちょっぴりまだ寒い。やはり、「ぶらり旅」は春風にのって南に行こう！今回目指すは、九州のすんくじら、鹿児島県薩摩半島の西海岸。すんくじらとは「隅っこ」という鹿児島方言です。日本地図をながめてみると、確かにここはすんくじら。でも、もっと広い視野でみると、ここは日本の玄関口。東シナ海の荒波が打ち寄せる複雑な地形のリアス式海岸には坊津、久志、秋目と天然の良港が続いており、古くは坊津から遣唐使船が中国に向けて出航し、鑑真和尚も秋目に上陸しています。坊津は、室町時代にあたる中国の文献に、福岡県博多津と三重県の安濃津(後に地震で壊滅)と共に日本三津として紹介され、しかも総路と記されているように、貿易船がたくさん行き来していました。

江戸時代になり、幕府鎖国令により貿易の窓口が長崎・出島に制限されたため、貿易の表玄関からははずれてしまいましたが、しばらくは薩摩藩の大掛かりな密貿易を担っていました。その後、江戸時代中頃に密貿易の徹底的な取り締まりがあり、坊津は貿易港としての役割を終えました。そして、残った船団はカツオ漁に活路を求め、それを加工するカツオ節の生産が産業の中心となります。それも、明治中頃からはカツオを求めて遠くまで出かけるために船が大型化していくと、坊津では手狭なためカツオ漁の中心はお隣の枕崎へと移っていきました。すんくじらと侮ってはならない、歴史のある地域です。

おおよその行程は25日、神戸港から午後7時の宮崎行きのフェリーに乗船。翌朝、宮崎港から宮崎駅に移動して鹿児島中央駅までは特急、そこで、鹿児島本線に乗り換えて伊集院駅に昼頃に着きます。そこからバスに乗って南さつま市加世田、バスを乗り換えて大当という集落に着きます。大当は「石垣の里」とも言われ、海岸から続く見事な石垣群の集落に宿泊します。28日は大当を出発して野間池から秋目、さらに、次の28日は坊津までと、変化に富んだリアス式海岸の景観と東シナ海の大海原を横目に見ながら、ひたすらいくつもの峠を越えて二日間歩き続けます。坊津は歴史を感じさせる密貿易屋敷や勅願寺であった一乗院跡などの文化遺産、安藤広重も画いた双剣岩などの景勝地、珊瑚礁や熱帯魚にもあえる岩礁などがあるので、丸一日足を休めて坊津をゆっくり堪能し、もう一泊します。最後の30日には枕崎港へ。カツオ節の匂いが漂う町並みを歩いて、線路の南の最終点である枕崎駅へ。そこからバスで鹿児島に戻り、さらに宮崎まで移動してフェリーに乗って翌朝大阪に戻ります。

今回の旅ではNPO法人「坊津やまびこ会」の方に、秋目や大当でも地元の方にお世話になります。

春はのんびり島めぐり

「ぶらり旅：瀬戸内編」

- ◇ 日程：3月27日(夕)～30日(昼)
- ◇ 対象：小五～小六(3月3日まで小六優先)
- ◇ 人数：10名
- ◇ 参加費：¥25,000円(予定)
- ◇ 子供会議：3月22日(日) 午後1時半～4時
自然教室事務所(地下鉄中崎町下車)



春一番の強い風が吹くと、ひと雨ごとに暖かくなって春が駆け足でやってくる。そう、春といえば『ぶらり旅』の季節。胸を期待でふくらませ、重い荷物を背負って瀬戸内の島めぐりに出かけよう！

今回の『ぶらり旅』、君たちが目指すのは四国・松山の沖合に浮かぶ忽那諸島です。忽那諸島には、人が住む9つの島がありますが、一番大きな中島を中心とする怒和島、二神島、津和地島、睦月島、野忽那島と、高浜港からの船便が結ぶ6つの島めぐりです。

狭い瀬戸内を流れる潮流、往来する様々な船など、大小たくさんの島が重なるすばらしい瀬戸内独特の多島美の風景が見られます。自然いっぱいの忽那諸島は有数のミカンの産地です。ミカンとひとくちに言っても、島で栽培する柑橘類は「温州ミカン」や「イヨカン」を筆頭に、新しくは「せとか」や「紅まどんな」など、その品種は多様で十数種類もあり、そのうえ、一年中どれかの品種が収穫できるのだそうです。また、忽那諸島では島の浅瀬や速い潮流もあってタコやタイなどの漁がさかんで、磯釣りポイントもたくさんあります。他にも、樹齢百年を超えるサボテンや町並みを彩る鰻絵と呼ばれる壁飾り、生きている木に彫られたお地蔵様、山そのものが社になっている妙見神社など、島の歴史と文化を感じられる建物などがすべての島のあちこちにちりばめられていて、どの島をどうめぐるか悩みます。ほ～ら、君も絶対に行きたくなってきたはず！

今回の『ぶらり旅』のおおまかな日程は、27日朝新大阪駅に集合して新幹線で広島駅まで乗り、さらに在来線に乗り換えて呉駅へ。目の前の呉港から高速船に乗って松山観光港まで。松山観光港から少し歩くと忽那諸島への玄関口である高浜港に着き、そこから島めぐりがスタートします。忽那諸島で三泊して高浜港に戻ってくるのが30日午後。そして、伊予電鉄の高浜駅からJR松山駅に移動し、岡山駅までの特急電車に乗り、さらに新幹線に乗り継いで新大阪駅には夕方に帰ってきます。

地元で活動する『まつやま里島ツーリズム連絡協議会』の方々とは相談しながら、何をするのか煮詰めていきます。今回は小六・小五が参加することを前提に、集会所を借りるなど、少し負担を減らそうとは思っています。しかし、もしかするとテントになるかもしれません。その覚悟はしておいて下さい。とにかく、みんなで力を合わせて、長い道りを歩いたり、おいしいご飯を作るためにがんばろう。

重かった荷物が軽く感じられて、出発前の期待が全部思い出に変わったら、そこには成長した君がいることでしょう。さあ、この春は忽那諸島で思いっきり旅を楽しもう！

おかあさん・おとうさんへ

遅れましたが、春企画の案内をお送りします。春企画は『春のいなば西郷自然教室』と『ぶらり旅：瀬戸内編』と『ぶらり旅：薩摩半島編』の三つになりました。いずれも申込用紙(兼健康調査票)に参加したい企画をお書きいただき、事務所までお送りください。

『春のいなば西郷自然教室』につきまして

『春のいなば西郷』は鳥取市河原町西郷地区弓河内集落の2軒の民家に宿泊します。それぞれの家に参加者10名・リーダー3名と、別に賄いリーダー2名を予定しています。なお、『いなば西郷』の申し込みが16名以上になるようでしたら、小五と小四で杣小屋集落で一班編成して『自炊班』とします。弓河内集落の2班は男女混合の縦割りとなります。月例会会員外の方も参加できます。

新大阪駅に3月27日の朝8時15分に集合、解散は3月30日の夕方6時頃の予定です。また、『自炊班』を行う場合は、その参加者は別の高速バスかJRになるかもしれません。

『ぶらり旅：瀬戸内編』につきまして 小六優先です(ただし、3月3日まで)

昨年は小五・小六対象として『天草自然体験学習』と『ぶらり旅：四国編』を行いました。6年間で5回(熊本地震後の春は休み)してきた『天草』ですが、今年は地元の受入体制が整わないため、『ぶらり旅：瀬戸内編』のみとなります。なお今年度は小六の会員が多いので、3月3日までは小六優先とします。

今回の『ぶらり旅：瀬戸内編』の目的地は、愛媛県松山市沖合の忽那諸島です。10年ほど前まで、瀬戸内海の島めぐりを『ぶらり旅』の初級編として毎年いろんなコースをとって企画してきました。忽那諸島にもこれまでに2・3回企画しており、最後は11年前でした。

しかし、10年前に松山観光港へ寄港するフェリーが廃止されました。それまでに今治港寄港もなくなっていたため、以後フェリーを使った企画である『瀬戸内編』はしていません。実は、夏の『祝島自然教室』も夜のフェリーで松山観光港へ行き、翌朝のフェリーで瀬戸内海を横断して柳井港へ渡り、祝島からの海上タクシーに乗船していたため、この年から夜間のフェリーから昼間の貸切バスに変更しています。(現在は貸切バス代が高騰しているため、JR利用です)

そこで、今回はJR西日本のフリー切符を使うことにしました。フェリーを利用していた時は現地3泊と往復の船中泊2泊でしたので、現地での行動は1実質日少ないこととなりますが、このフリー切符が利用期間が4日間という制限があるため現地の三泊のみです。細部はこれから決めて行きますが、地元の「まつやま里島ツーリズム連絡協議会」の方と連絡を取りながら進めていきます。

『ぶらり旅：薩摩半島編』につきまして

中学生の『ぶらり旅』、今回は鹿児島県の薩摩半島を目指します。薩摩半島には4年前に続いて二回目です。前回は踏襲して、この地域で頑張っている団体の方々の協力を得て進めていきます。

前回、往路は宮崎へのフェリー、復路は新幹線でした。『ぶらり旅』参加費の上限を5万と設定していますが、今回は『ぶらり旅』担当者の世代交代もあり、若手リーダーの人数を増やしますので、経費節約のため往復共にフェリーを使います。

なお、『ぶらり旅』企画では『子ども会議』を行います。遠方の方以外は、この日か、別に設ける予備日に参加していただきます。

春の企画に関する問合せは 西村 (090-1149-4326) まで

大阪自然教室